



ATR 温故知新（故きを温ねて新しきを知る）シンポジウム

2025 年 ATR オープンハウス（ATR-OH：10/2-3 木金）の翌日（土曜日）OH の一環の ATR 40 周年記念事業として、けいはんな R&D フェア（けいはんなプラザ）と同時開催する予定。

日時：2025 年 10 月 4 日（土曜日）13:30-17:30（開場：13:00）

場所：ATR 地階大会議室（約 150 名）、WEB 放送（リモート視聴可）

使用言語：英語（プレゼン画面上には AI による同時翻訳で日本語を表示）

主催：ATR、けいはんな万博 2025 運営協議会 共催予定

開催の主旨：

さまざまな先端的な研究開発が長年 ATR で行われているが、その創立当時、発足の 1986 年から 2000 年ころにかけて、当時としては（今でも）更にとびぬけて先駆的な研究が行われた。その中には、数十年を経て開発が進み社会に実現した成果（例えば自動翻訳）も、実現に至っていないものの昨今の AI に大きな影響を及ぼしているもの（例えばサイバー空間に住む人工的な生命）もある。

何よりも研究者の自由な発想を大切にする ATR において、かつて研究を行った研究者を海外から招く。当時のチャレンジングな研究環境、新たな発想へのヒント、そのような研究を志したきっかけ、その後に経験した様々な出来事などをお話し頂く。

そのような研究者の若き日々からのチャレンジを目の当たりにすることにより、未来への想像力をさらにたくましく、成長してもらいたい。特に、これから未来に向けて羽ばたく高校生や大学生たちにエールを贈る場としたい。

プログラム（案）

13:30-13:45 開会のごあいさつ 浅見社長

13:45-14:30 講演「（仮）若き日の AI への挑戦」アレックス・ワイベル教授

14:30-15:15 講演「（仮）生態学者が作る人工生命」トム・レイ教授

15:15-16:00 講演「（仮）アートとしての人工生物」クリスタ・ソムラー教授 & ロラン・ミニョノー教授

16:00-16:45 講演「AI 搭載のヒューマノイドロボットとそれが支える未来社会」セトウ・ビジャヤクマール教授

16:45-17:30 講演者と日本人研究者、浅見社長によるパネルディスカッション

※いずれも 5～10 分の質疑応答時間を含む

講演者：

アレックス・ワイベル教授：カーネギー メロン大学およびカールスルーエ工科大学のコンピュータサイエンス教授、自動音声認識、翻訳、人間と機械のインタラクションが専門。ノーベル賞受賞者のジェフリー・ヒントンともワイベルが筆頭の共著論文がある。



トム・レイ教授：オクラホマ大学動物学教授、計算機科学准教授。1990年代に開発した人工生命プログラムのティエラ（Tierra）がよく知られている。ティエラは寄生や共生といった助け合いだけではなく敵対性も生命の進化を促進することを明らかにし、このような考えが最新の機械学習アルゴリズムにも活かされている。



クリスタ・ソムラー教授&ロラン・ミニョノー教授：メディア・アーティスト。リンツ工科大学造形芸術大学メディア学部教授。クリスタ・ソムラーは植物学と美術、ロラン・ミニョノーはメディアとビデオをそれぞれ専攻し、1992年から共同で作品を発表。「生命システムとしてのアート」を掲げ、人工生命、コミュニケーション、ヴァーチャル・リアリティをテーマに、コンピュータを用いたインタラクティブな芸術作品を多数制作している。



セトウー・ビジャヤクマール教授：エディンバラ大学のロボット工学教授。有名なアランチューリング研究所のプログラムディレクタ。BBC2番組ロボットウォーズの審査員でもある。最新の人工知能（AI）を搭載した、ヒューマノイドロボットを開発し、ヒトの日常生活の支援に向けた研究開発が進行中。講演では、今ロボットでできることとできないことを明確に説明し、未来に向けて解決すべき課題について紹介する。



海外からの招待者とのコンタクト責任者でパネルディスカッション参加者（上記研究者とはATRにおける研究開発で共同研究してきた）：

下原 勝憲 同志社大学 名誉教授（同大学工学部情報システムデザイン学科教授）
片桐 滋 同志社大学 名誉教授（同大学、研究開発推進機構、嘱託研究員）

以上

<お問い合わせ>

株式会社国際電気通信基礎技術研究所

総務部 soumu@atr.jp 電話：0774-95-1111(代表)